

# 令和8年度 西小学校 読解力 育成プラン Go WEST

## PISA読解力

日常生活に応用する問題解決的な総合言語力

- **自らの目標を達成し**、自らの知識と可能性を発達させ、**社会に参加するために**テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと
- ①情報を探し出す
  - ②理解する
  - ③評価し、熟考する

「Society5.0」の到来

「膨大な情報の中から適切なものを見つけ出し、それを編集できる力」を身に付ける

## 西小読解力

あらゆる教科に通じる総合的な学力・生きる上で必要な力

- 身の周りのさまざまな情報を読み取り（認識）、自分の頭で考えて（思考）、言葉で伝える（表現）力→**知識を自分の言葉で活用する**
- ①文章・図・グラフからの情報を理解して発信する力
  - ②相手の言葉・表情・しぐさから思いや考えを察して 伝える力
- 何のために（**目的意識**）
  - 誰に対して（**相手意識**）
  - 学びに向かう力・人間性（**学習者自身の意識**）

## 発達段階に応じた読解力の育成

### 低学年：豊富な語彙の獲得

- 生活科や学校行事を通じた多様な経験をさせることで、五感を使って語彙を「体得」させる
- 日常生活で使われる様々な分野に属する語彙を教師が意識して獲得させることで、学習言語を獲得する素地を養う
- 豊富な語彙を身に付ける「共通体験の場」として授業を位置づける

### 中学年：豊富な語彙を基盤とした学習言語の獲得

- 学習言語獲得の妨げとなる「課題外在性認知負荷」を軽減するトレーニングとして、学習内容における基礎基本の徹底や支援の内容や方法の精選を行う
- 「学習言語」について教師が正確な意味を捉え、低学年で培った経験に基づく豊富な語彙をもとに「学習言語」を捉えさせ、確実に理解させる

### 高学年：分野に応じた学習言語の構造理解

- 新たな学習言語との出会い方や教科書に書かれた文章の意味理解における「教科ごとの特性」を理解させる
- 各教科の教科書における「非テキスト情報」の種類と、その読み方が理解できる授業を展開する

## 読解力育成のポイント

- ①授業において教員の発する言葉や提示した文章が、教員の意図したとおりに児童に伝わるようにする
  - めあての表記「都道府県リーフレットをつくろう」（4年国語）
  - 「自分の考えと理由を区別して 都道府県の良さを伝え、友達が行きたくなるリーフレットをつくろう」
  - 相手意識・目的意識を明確にすることで、具体的な工夫のイメージを児童にもたせる

- ②読解力の基礎となる 語彙力を発達段階に即して児童に身に付ける
  - 意味が分からない言葉は 辞書を使って調べる
  - 言葉の辞書的な意味を覚えるのではなく「言い換え力」を鍛える
  - あいまいな表現「たくさん」「すごく」等ではなく、具体的な表現で説明する
  - 国語以外でも教科書や課題・問題文などを音読する
  - 文と文の順序や接続を表す言葉（「まず」「次に」「または」等）を正しく使う
- ③「読む」「書く」「聞く」「伝える」を通して読解力を高める